

## 資本ストック検討委員会の審議経過

平成 18 年 7 月 19 日

資本ストック検討委員会の目的は、「資本ストック統計に関し推計方法を含めた抜本的検討を行い、統計データとしての質の向上を図る。当面は、推計精度低下の可能性が指摘されている有形固定資産に関する検討を中心に進める。」ために設置され、平成 16 年 12 月 24 日の第 1 回会合以来、計 3 回の検討を重ねた（開催状況は別紙参照）。

国民経済計算調査会議総会の開催にあたり、これまでの審議事項・内容を以下のとおり整理した。

### 1. 第1回検討委員会

事務局より、「(1)会議の体制、公開、(2)目的、検討課題(概念定義、推計精度低下の可能性に対応した推計方法及びデータ収集、推計分類と表章形式、公表系列の整合性)」について説明があり、これに対して、「概念、資産評価方法、推計方法」などについて議論を行った。

### 2. 第2回検討委員会

野村委員より、「恒久棚卸法」による推計方法を仮定した場合の推計フレームについて説明があり主な内容は次のとおり。

- (1) 伝統的なストック概念に対して、「粗資本ストック」、「生産的資本ストック」、「純資本ストック」という3つのストック概念。その測定の具体的なプロセスにおける「経齡的効率性プロファイル」、「経齡的価格プロファイル」、資本の効率性と価値の分布パターン。
  - (2) 幾何分布、ハイパーボリック型の分布パターン。
  - (3) 資本ストックの年次化(資本サービス価格)の概念及び測定方法。
  - (4) 生産的資本ストックとしての「土地ストック」の測定の重要性。
  - (5) 無形固定資産のうちコンピューター・ソフトウェアの測定範囲拡大の必要性。
  - (6) 資本サービス・コスト測定についての「非市場生産(政府、民間非営利団体)」への範囲拡大。
  - (7) 日本のストック統計が抱える課題と優先順位。
- これに対して議論、問題提起がなされた。

### 3. 第3回検討委員会

事務局より、「我が国ストック統計の整備方向について」説明があり、当面整備を進めたい以下の方針が示されて、議論された。主な内容は次のとおり。

- (1) 自社開発ソフトの固定資本形成への導入、方法。
- (2) 減耗パターンの推計方法(中古品市場の取引データ 等による)への転換方法。
- (3) 企業に対する実態調査を行う場合の必要項目、企業簿価の時価評価方法。
- (4) 企業(資本形成主体)所有データと、必要データの違いにより、重要度より調査可能な調査の実施。
- (5) SNAと速報の概念および「SNA、確報、フロー」の関連付け作成。
- (6) スtock推計における連鎖の意味。

(以上)

## 資本ストック検討委員会について

本委員会は、平成16年10月19日に開催された国民経済計算調査会議総会の議決により設置された。

### 1. 構成員

委員名簿（平成18年7月19日時点、五十音順、○印は委員長）

井出 多加子	成蹊大学経済学部教授
○高木 新太郎	成蹊大学経済学部教授
時子山 ひろみ	日本女子大学家政学部教授
中村 洋一	法政大学工学部教授
野村 浩二	慶應義塾大学産業研究所助教授
宮川 努	学習院大学経済学部教授

### 2. 審議内容

資本ストック統計に関し推計方法を含めた抜本的検討を行い、統計データとしての質の向上を図るため、専門的な観点から検討する。

(別紙2)

資本ストック検討委員会開催状況

開催数	日時	主な議題
第1回	H16. 12. 24	・ 委員会立上げ(委員紹介、任期等) ・ 調査審議の目的および検討課題について
第2回	H17. 3. 28	・ Turn the Tables! Reframing Measurement of Capital in Japanese National Accounts
第3回	H17. 6. 27	我が国ストック統計の整備方向について